

台風23号が豊岡に残していったもの」 吉田香琳

何しているの。早くしなさいよ」
 水につかりそうな車に乗りこむ時、お母さ
 人の必死な声で、私ははっ」と我にかえた。
 玄関で水に浮かんでいくつ。川からど」と
 あふれてくる水。近くで近所のおばさんが荷
 物をまとめている。目の前ではお母さんが私
 に手を伸ばしていた。私は言われるまま、あ
 わてて車に乗りこんだ。何が起きたのか、最
 初はよくわからなかった。でも、おばあちゃん
 の家の三階から町を見渡すと、水に沈んだ豊
 岡がそこにあつた。汚れた水はたくさんのが
 ミを運んがくる。何日たつても水はひく気配
 を見せなかつた。や」とひいたと思つたらそ
 こにはドロとゴミで汚れた町があつた。家に
 帰つた時、お母さんの泣きそうな顔がとても
 心に残っている。私も泣きたくなつた。家は
 ひどいありさまで、床の上はドロだらけでテ
 レビもソファアモパソコもみんなだめにな
 っていた。お母さんは歯をくいしばつてせせ
 と片付け始めた。私も黙つて手伝つた。非心し

くてつらくて言葉がでなかつた。でもそんな
時、大阪から親せきの人が助けに来てくれた。
「だいじょうぶ。私か来たから。いっしょに
かんばろう。」
その言葉に私は泣きそうになった。豊岡が
水につかたたと知ってすぐに飛んできてくれ
たのだ。私はこの時に人の優しさにふれてと
てもありがたいと思った。

いつもは気づかないけれど、いざこういう
ことになつてみると、いつもの何でもない平
凡な日常が、実はとても幸せな時だと感じら
れる。親や親せきの人のありがたさがわかる。
台風23号が豊岡に残していったものは大きな
キズ跡だった。でもそれだけだろうか。毎日
の幸せを忘れてしまっていた私達に、改めて
その幸せに気がかせるものでもあったのでは
ないか。助け合うことの大切さを思い出させ
るものでもあったのではないだろうか。